

株式会社アルファシステムズ

第45期 中間報告書

2016年4月1日から2016年9月30日まで



お客様にとって 「なくてはならない会社」を目指すとともに、 人材・技術・組織の強みを活かし、 さらなる成長を目指します。

代表取締役社長 黒田 憲一



Q1 第45期中間期の事業環境や業績、 通期の見通しについてお聞かせください。

当中間期の状況

前期に続きオープンシステム分野が拡大

当社は前期に大きな変化を経験しました。売上構成比において、創業以来主力だった基幹系通信システム分野が50%を下回り、オープンシステム分野がトップになったのです。これは、ICT投資の拡大が続くオープンシステム分野へのシフトを推進し、通信分野で培った強みをそこで発揮した成果です。

当社がいうオープンシステムは、金融、エネルギー、官公庁、流通・サービスといった通信システム以外の分野のシステム開発、またインターネットをビジネスの基盤に据えた企業向けのシステム開発のこと

ことです。

当中間期も前期に続き、オープンシステム分野が好調に推移し、売上構成においてもさらに拡大しました。当中間期の業績としては、オープンシステム分野の好調、前期に不調だったプロダクト・サービスビジネスの復調により増収となりましたが、前年同様に集中した収益性の高い案件が平準化したことなどから減益となりました。

通期の見通し 事業は順調に拡大

当期は期初の受注残高が豊富で、多数のプロジェクトが進行し、稼働率も高位に安定しています。事業は順調に拡大しており、通期の売上高、営業利益、経常利益は前期より増加する見込みです。

Q2 どのような強みが、これまでの成長を支え、これからの成長を牽引していくとお考えでしょうか。

人材 技術力を持つ多数のエンジニアが活躍

第一に人材です。当社には長年鍛えられた、技術力を持つエンジニアが2,200名強従事し、この人材が様々な形で力を発揮し、活躍しています。

特に、どんなプロジェクトでも完遂する力は、お客様から高く評価されています。また、他社が手掛けて問題が生じたプロジェクトを途中から立て直して完遂し、お客様の期待に応えています。当社は、前者を「ローマの重装歩兵軍団」、後者を「ときどきお助けマン」と呼んでいます。

このような完遂力は通信分野で培われました。同

分野は納期や品質に厳格であり、そこでの経験が完遂力のある人材形成に寄与したといえます。

技術 通信分野で培った強固な技術力がベース

人材が持つ高度な技術力も、通信分野で培ったものです。これがオープンシステム分野へのシフトや、成長の要因になっています。通信分野で広範囲にわたって高度な専門的技術を培ったことで、オープンシステム分野の様々なお客様の高度なシステム開発を実現しており、この技術力は業界で相当高いレベルにあると自負しています。

組織 プロパー主義の開発体制が信頼を獲得

先ほど述べた2,200名強のエンジニアは全員プロパーです。開発チームも基本的にプロパーで構成します。開発業務は一品作って終わりではなく、後から様々な追加業務が発生します。他社では開発が終了すると大半のメンバーがいなくなるところもあるようですが、当社は同じメンバーが継続して担当できるため、お客様から信頼を獲得しています。

強みの融合

人材・技術・組織の強みを発揮し、さらなる成長へ

2,200名強の、高度な技術力を持つプロパーのエンジニアが一丸となることで、人材・技術・組織の強みが融合して、お客様の信頼を獲得し、一層強固

なものにしています。これらの強みを発揮して、今後もさらなる成長を目指します。

Q3 今後の経営方針、特に中長期的な取り組みについてお聞かせください。

当期の取り組み

新たな経営課題、特にオープンシステム事業の基盤強化に注力

まず、当期は新たな経営課題に取り組んでいます。オープンシステム分野が主力となつたいま、新たな経営課題として、「オープンシステム事業の基盤強化」、いわば深掘りに取り組んでいます。また、文教分野を中心とした「プロダクト・サービスビジネスの拡大」に向け、競争力・営業力・保守体制の強化にも取り組んでいます。

中長期の方向性

「持続的な成長と安定した収益基盤の実現」に向けて、お客様にとって「なくてはならない会社」を目指す

中長期の方向性としては、「持続的な成長と安定した収益基盤の実現」に向けて、お客様にとって「なくてはならない会社」を目指します。

ソフトウェア開発関連事業については、オープンシステム分野の市場が大きいと、アンテナを高くしてしっかり事業推進すれば今後も受注が増えるでしょう。しかし、当社はまだ同分野では新参者です。「オープンシステム事業の基盤強化」という新たな

課題はそれを踏まえた深掘り策です。具体的には、長く受注が続くような分野への注力、様々なお客様に合わせた人材・技術・開発体制の整備、お客様特有のノウハウの習得に努めます。

その他事業（プロダクト・サービスビジネス）については、文教分野で競合する製品に日本製のものはなく、当社だけです。当期は、当社のレベルの高い「MADE IN KAWASAKI」のアピール、納入後の丁寧な対応が実り、買い替え時に他社領域を獲得して飛躍的に伸長しており、今後もこの丁寧な営業活動を継続します。

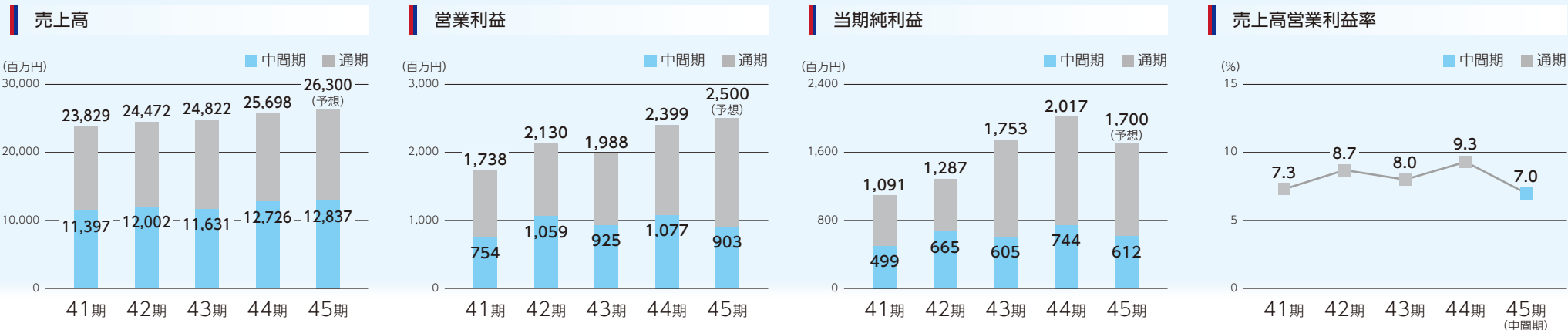
今後も、これらの戦略でお客様にとって「なくてはならない会社」を目指します。

Q4 株主の皆様へメッセージをお願いします。

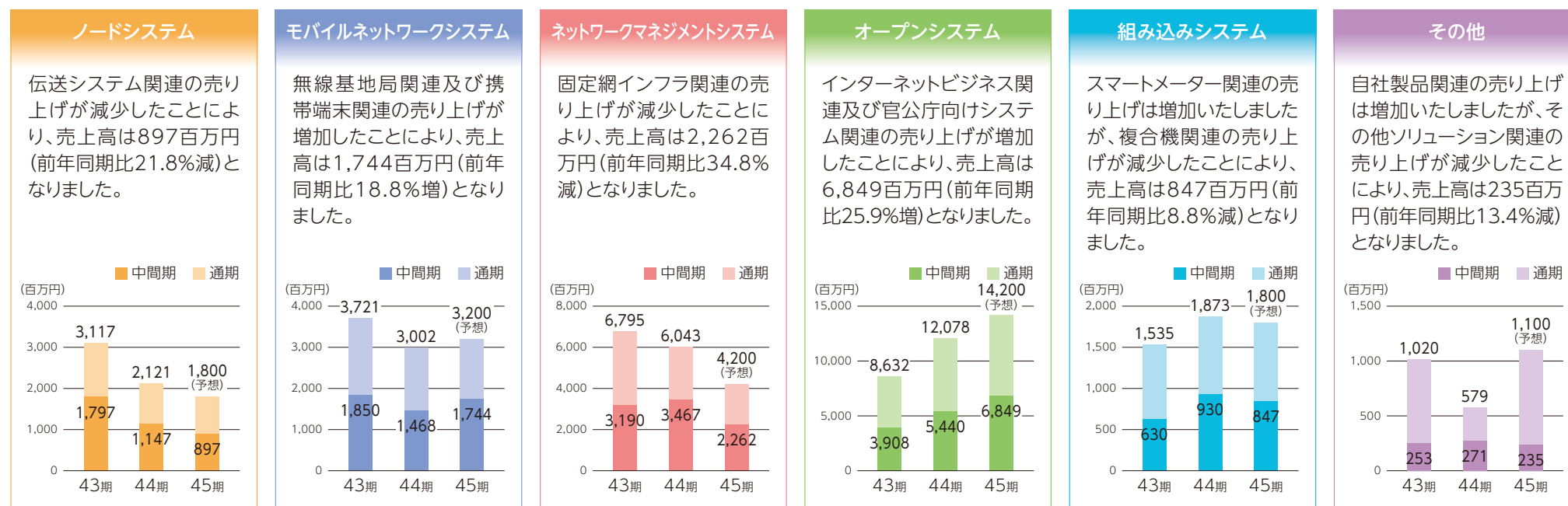
人材・技術・組織の強みを活かし、さらなる成長を目指す

ICTの発展にはソフトウェアは必須です。特にオープンシステム分野はICT投資の拡大が続いており、この有望な市場で、通信分野で培った人材・技術・組織の強みを活かし、さらなる成長を目指します。引き続き、株主の皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事業概況報告



事業区分別の概況(売上高)



デジタル革命時代の到来、産業の垣根を超えて ICTで稼ぐ時代へ

市場は拡大基調、開発要員不足が顕在化

金融・保険、官公庁をはじめ幅広い分野で投資拡大基調

- 日銀短観 2016年度ソフトウェア投資見通しは前年度比6.9%プラス
- 経済産業省特定サービス産業動態統計「受注ソフトウェア」は4年連続の前年比プラス

ITへの対応ニーズの顕在化

- マイナンバー対応をはじめとする官公庁システムの高度化
- 金融・郵政システムの大規模更改
- 電力・ガスシステムの改革
- セキュリティ・サイバー攻撃対策

IT技術の高度化

- ソフトウェアのサービス化、APIエコノミーの拡大
- ネットワークがソフトウェアで制御される時代へ

IT技術者不足

- 団塊世代の引退時期に、金融・公共分野等の相次ぐ大型プロジェクトが人手不足に拍車
- 転職求人倍率が全業種中最高に

トピックス

政府主導による産業活性化(金融緩和、公共投資、民間主導)

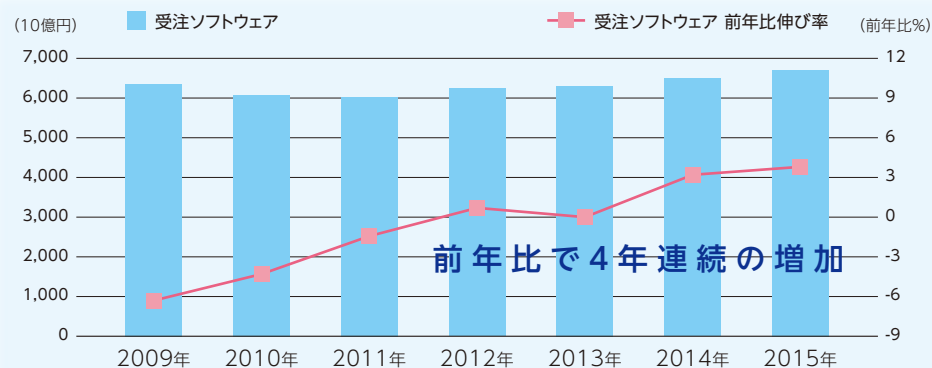
東京オリンピックに向けたICT環境整備、サービス開発

社会システムへのICT活用拡大(高齢化社会、FinTech、農業)

クラウド、IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボットなどのイノベーションの加速

データ通信量の爆発的増加に伴う、通信インフラ増強ニーズの拡大

拡大基調に戻った国内IT市場 (「特定サービス 産業動態統計・受注ソフトウェア」の売上高推移)



「和・信頼・技術」を体現し、時代のニーズをキャッチ

アルファシステムズの強み

技術面

基幹系通信システムにおける
大規模システム開発ノウハウ

広範囲にわたる技術要素
(長年培った高度な通信専門の技術を
ビジネスシステムの汎用分野に応用)

プロパー主義の開発体制

組織面

品質に
こだわる
企業文化

プロジェクト
マネジメント力

チーム
ワーク力

人材面

体系的教育システム
(若年 ▶ 中堅・ベテラン ▶ 管理職)と
OJTが生み出す、プロフェSSIONAL
としての基礎力

顧客の信頼獲得

高い・広範な技術力

納入後の問題発生にも
迅速に対応

開発プロジェクトの
小型化・短納期化への対応

情報漏えいリスクの極小化

他社が手掛けた
問題プロジェクトを
引き継ぎ完遂

時代のニーズ

ICTの活用領域が拡大

あらゆる分野で高度な
通信技術が必要と
なっている

通信システム開発で培った
アルファシステムズの
高度で専門的な技術が、
通信以外の分野でも活躍

中
長
期
的
な
成
長
へ

文教ソリューション
V-Boot

V-Boot(バイブート)は「自社開発製品」です。競合製品の多くが海外製の中、V-Bootは「純国産」の強みを活かし、営業活動や展示会出展を通して得られたお客様やベンダーのニーズをすばやく製品に取り込むことができます。

45期もこの強みを活かし、従来、**他社製品と組み合わせなければ実現できなかった機能を、V-Boot単独で実現できるように開発を行っています。**これにより、他社製品との競争優位を実現し、より競争力を高めることができます。

以下に主な機能開発事例をご紹介します。

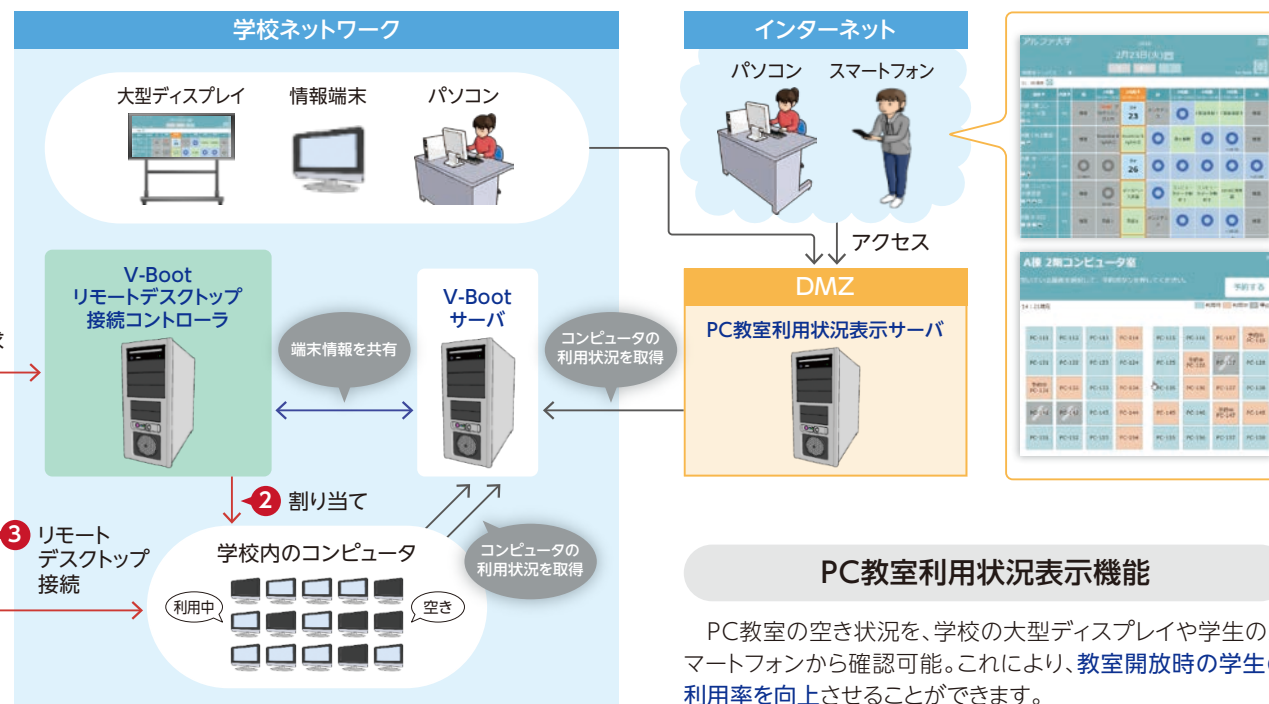
外部メディア抜き忘れ検知機能

クライアントPCのログオフやシャットダウン時に端末利用
者がUSBメモリを抜き忘れている場合、クライアントPCにイン
ストールしたV-Bootエージェントプログラムが検知し、クライ
アントPCの画面に警告を表示。これにより、**利用者自身が抜
き忘れに気がつくことができるようになります。**



リモートデスクトップ[®]接続コントローラ

持込みPCや自宅PCからリモートデスクトップ接続管理サーバを経由して空き教室等の端末にリモートデスクトップを接続することができます。これにより、**空き端末の有効利用が可能となります。**



45期の導入実績

45期上期は、北海道、関東、近畿、九州地域の計5校にV-Bootを導入しました。上期に5校というのは例年の2～3倍の件数であり、V-Bootの知名度と評判が着実に上がっていると実感しています。下期も4,000台クラスの大型案件を含め、すでに7校への導入が決まっており、現在もさらに学校やベンダーから引き合いが続いている状況で、最終的には十数校の導入を見込んでいます。

地域の環境美化活動に参加して

神奈川県に本社を置く当社では、地域への貢献と環境の美化を目的として、毎年、川崎市が主催する多摩川美化活動と、かながわ海岸美化財団が推進するビーチクリーン活動に参加しています。

今年は、何れのイベントも6月に実施されました。

多摩川美化活動では、早朝から激しい風雨のため、実施が危ぶまれる状況でしたが、天候が徐々に回復したこともあってか、主催者発表では12,018名の参加があったようです。

当社からは、両イベントを合わせ、社員有志を中心としたメンバー約120名が参加し、環境美化活動のお手伝いをさせていただくことができました。

今後も、これら社会貢献活動へ、積極的に参加してまいります。



第38回
多摩川美化活動

三浦海岸
ビーチクリーン活動



事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話：0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.alpha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- ご注意
- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

systems 株式会社アルファシステムズ

〒211-0053
神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号
本社(中原テクノセンター1号館)
電話：044-733-4111(代表) Fax：044-739-1100
<http://www.alpha.co.jp/>

